

VisionとStrategy 医療・福祉経営の新時代と人財を創る 戦略

私のVisionと経営戦略

台中市 前副市長 林 依瑩 氏

特集

「大好きな北杜で最期まで!」

~在宅死亡率日本一をめざす一般社団法人だんだん会

日本初の別荘ホスピス「わがままハウス山吹」オープン~

医療福祉経営最前線

さわらびグループ
(愛知県豊橋市)

HMSセミナー集

保健・医療・福祉サービス研究会

イタリア / ドロミーティ

2019

6

特集

「大好きな北杜で最期まで!」

～在宅死亡率日本一をめざす一般社団法人だんだん会
日本初の別荘ホスピス「わがままハウス山吹」オープン～

本年4月、在宅死亡率日本一をめざす一般社団法人だんだん会（理事長 宮崎和加子氏）は、東京圏からの移住者が多い北杜市の地の利を生かし、日本初の別荘ホスピス「わがままハウス山吹」をオープン、この開設記念に合わせ「大好きな北杜で最期まで！」をテーマに記念講演会と座談会が開催された。そこで、「Visionと戦略」6月号特集では、「わがままハウス山吹」開設に抱く宮崎和加子氏の事業構想と経営戦略について伺ったので紹介する。また記念講演会で「家でお迎えを受けるために必要な知恵」をテーマに講演を行った医療法人社団パリアン 理事長・クリニック川越 院長 川越厚氏の講演内容や、「家で本当に死ねるの？」をテーマに地域の在宅医、訪問看護師、介護支援専門員、住民代表が集い、討論を行った座談会の内容をとりまとめ報告する。

Part 1 軽度から重度まで同居する 入居期間自由のシェアハウス

一般社団法人だんだん会 理事長
宮崎和加子 氏

Part 2 在宅医療の思想は「Let It Be」 努力しても限界なら、そのままでいい

医療法人社団パリアン 理事長
クリニック川越 院長
川越 厚 氏

Part 3 座談会 本当に家で死ねるのか? 北杜市で実践される在宅看取り

コーディネーター

きよさと診療所 所長 福富みづほ 氏

講 師

地域看護センターあんあん 所長 樋川 牧 氏

アルプス居宅介護支援事業所 主任介護支援専門員・介護福祉士 清水 雪江 氏

ふるさと情報館 取締役会長 佐藤 彰啓 氏

北杜市 住民代表



川越 厚 氏

三つ目は、医療と介護をプロの集団が行うことです。私たちがこの地域で最期まで暮らせるようにするために医師、看護師、介護士、ケアマネジャーなどのサービス体制を整える努力をしてきましたが、その体制をこの施設でも活用することにしました。

さらに運営会議には地域住民に加わっていただき、定期的に意見を収集しています。私はこれまで何度も実施した入居者向け説明会で、入居者さんによる自治会を作りたいと強調しました。主体は入居者自身であり、理事会にこうしてくれという要望を上げて、新たに入居してくる人たちと一緒に自分たちの暮らしをここでつくっていくことを説明しました。

参考にしたモデルなどはあつたのでしょうか。

宮崎 私はこうした生活形態をヨーロッパで見てきました。視察に行くと、職員ではなく入所者代表の方が案内してくれたのです。介護を受けた入所者さんが「ありがとう」

と言うだけでは良い家になつてもいいのですか?」と聞かれましたが、そうした決まり事は一切設けていません。

入った人たちで決めればいい。皆が好きなら飼えばいいし、嫌いな人がいたら話し合えばいい。そういう運営をしていきたいと思っています。

■開設に際していくつか物件を探したと思いますが、この物件に決めた理由は何ですか。

富崎 スマートウェルネス住宅等推進モデル事業では改築型には3分の2の補助金が出ますが、新築にはそこまで出ないので、改築型にしようと決めました。そしてペンションのサイズがちょうど良いと思つたので、空きペンションを相当探しました。

施設でないところで最期まで自分らしく

■「わがままハウス山吹」

この地域はペンションが多く、売却物件が二十数棟ありました。それらを見て歩いて、価格と駅からの距離、高速道路の出入口からの距離

などを考えて、この物件を選んだのです。山の中では孤立してしまいますが、ここなら駅と自宅を往復する多くの住民の目に触れ、開設しているだけで宣伝になります。また近くには星野グループが運営する「リゾナーレ八ヶ岳」や道の駅もあって、生活も楽しめる立地です。

物件の取得費そのものは3000万円ですが、改修費は高くて言いくらいですね(笑)。だから経済的に大変です。部屋数は11室8部屋を長期間利用に充て、2部屋を短期利用、1部屋を緊急対応用に確保します。医療をやつていると必ず緊急対応が起きます。経営がトントンになるには7~8室の入居者確保が必要ですが、この数を確保できればやつていけると思います。

ていますか。



宮崎 モデル事業なのでいろいろな統計を取っています。入居の相談がたくさん来ます。が、分析してみると、予想していなかつた方が入居を希望してきます。80代の女性の例ですが、旦那様が脳卒中になられ、お子様が幼い時から脳性麻痺なので、自分の人生はどうなってしまうのか？ 家で話す相手はいないし、特養が開いているサロンに行つても要介護者が多くて辛くなってしまい、一度しか行かなかつたそうです。ただお茶を飲みながら話せる場がほしいと望んで、ここに視察に来られました。

ご案内したら「こんな場所を探していた」と涙を流され、「ここに月に2泊3日で過ごせたら、ちょっとリッチな気分になれ、オシャレな会話を楽しめて、夫と息子を介護するエネルギーが湧いてきます。今まで暗かった人生が明るく見えてきたわ」とおっしゃいました。視察に来て、30分で入居を決められた方もいます。

宮崎 新しくつくるには資金が必要なので、当面は計画のミソです。

この前も「すぐに満杯に

(文／編集部)

ちでどこかの施設に入るのではなく、素敵な家に隣りの人と一緒に住むという感覚を持つことができて「あそこに入った人は幸せね」と言われるような建物と中身にしたいと思っています。介護施設以外で最期まで自分らしく暮らしたいという方々から、もうキリがないぐらい、たくさんの方々が入っています。

■このハウスのオープンに対して、どんな感想が入ってきていますか。

宮崎 「今は入らないけど、こういう住宅ができる安心しました。緊急対応もしてもらえるので弱った時の住居の不安がなくなった」という感想が多く聞かれます。この反応を聞けただけでもオープンしてよかったです。

■このタイプのシェアハウスは増えそうですね。

宮崎 医療ニーズの高い方の生活の質を守ることが、これから日本の大きな課題だと思っています。その患者さんが病院や施設に入るのではなくて、このシェアハウスのような住宅で、お互いに関わったり、関わらなかつたりしながら、わがままな生活のできる場づくりが必要だと思っています。専門職の配置基準もないところが、シェアハウスのミソです。

